

マラカンド野戦軍の物語

辺境戦争における一エピソード

ウインストン・チャーチル著

「それ（辺境戦争）は文明の波打ち際と前進を示す泡にすぎない。」  
ソールズベリー卿（\*一八三〇年生、イギリス首相）、ロンドン市庁舎にて、一八九二年

目次

序文	
第一章	戦争の舞台
第二章	マラカンド・キャンプ
第三章	勃発
第四章	マラカンドへの攻撃
第五章	チャクダラの救援
第六章	チャクダラの防衛
第七章	スワットの門
第八章	モーマンドの地への前進
第九章	調停
第一〇章	ナワガイへの行軍
第十一章	九月一六日、マムンド溪谷の戦闘
第十二章	イナヤット・キラにて
第十三章	ナワガイ
第十四章	マムンド溪谷に戻る
第十五章	騎兵の仕事
第十六章	降伏
第十七章	軍事的所見
第十八章	そして最後に…：辺境の謎

この本をここに記録された作戦をその指揮下に行い／その統率力によって成功に導き／  
その厚意によって著者に人生において最も価値ある魅惑的な体験をさせてくれたバス勲章  
ナイト・コマンドー受勲者である少将、ビンドン・ブラッド卿に捧げる